

## いのちに至る悔い改め

### 1. 悔い改めと信仰とを言うなら、何が先ですか。

キリスト者の生活にあって、信仰より悔い改めが先のように見えます。しかし、心に信仰の種が植えられているから悔い改めが起こるのです。信仰が発生すれば、その一番目の実として悔い改めが出ます。ところが、もう一方の違った説明によれば、悔い改めとは、罪に対して深く悟って、赦しを求めることなので、信仰と同時性を持っています。従って、悔い改めと信仰の順序を、時間上の差として見ることはできないのです。

### 2. 悔い改めを「福音的恵み」と呼ぶ、理由はなぜですか。

悔い改めは、私たちに命令として与えますが、神の恵みがあってこそできます。悔い改めは、恵みが基礎となるべきです（ヘブル6:1）。悔い改めは純粋な福音の恵みです。しかし、行為契約では、悔い改めは許可されませんでした。アダムが罪を犯した時は、赦しの恵みは与えられませんでした。アダムが犯した罪の結果は死でした。ところが、恵み契約を通して赦しの恵みが与えられ、悔

い改めが入って来たのです。つまり、福音によって悔い改めが与えられたのです。キリストは悔い改める者を、ご自身の血によって救います。それで、悔い改めを福音的恵みと呼ぶのです。

### **3. 悔い改めは、どのようにして起こりますか。**

部分的には神の御言葉を通して起こります (使徒 2:37)。神は、説教される御言葉を用いて悔い改めが起こるようにされます。エレミヤは、その悔い改めの機能を持っている御言葉について、心を打ち砕く「金槌」と説明しています (エレミヤ 23:29)。もう一方で、悔い改めは聖霊によって起こります。この時、御言葉の働き人は、ただの道具に過ぎません。つまり、説教された御言葉を、聖霊さまが有効にさせる時に、悔い改めるようになるからです (使徒 10:44)。聖霊さまがその心を責め砕く時に悔い改めが起こるのです (ゼカリヤ 12:1)。神の御言葉が叫ばれると言っても、聞く人の良心に、聖霊の御業があつてこそ悔い改めが起こります。

### **4. 偽りの悔い改めには、どのようなものがありますか。**

偽りの悔い改めには色々あります。第一、偽りの悔い改めとは、律法的な恐れの中にいながらする悔いです。イスカリオテ・ユダは自分の罪を悟って良心に自責が起きました。罪に対する後悔もありました (マタイ 27:3)。しかし彼は罪の赦しのために神の前に出ませんでした。ただ罪に対する恐れの中にただけです。これを律法的恐れと言い、それ自体を悔い改めとは言いません。

第二、偽りの悔い改めとは、罪を犯すまいと決心するだけのことです (エレミヤ 2:20)。これは、真に悔いているものではありません。罪による困難から避けるために決心はします。神の審判と地獄に対する恐れので、罪を犯すまいと

決心することはできます。しかしそのような決心は意志が更新されていない状態なので、その恐れが消え去ると再び罪の中に留まるようになります。これらは、言うまでもなく自分を愛する心から出て来ます。

第三、偽りの悔い改めとは、罪に対して涙を流すけど、罪から離れず続けて罪を犯す場合です。パロはモーセに、自分と自分の民の罪を認めながら告白しました（出 9:27）。しかし、その災いがやんだのを見ると、またも罪を犯しました（出 9:34）。このような悔い改めを一時的な悔い改めと呼びます。これは真の悔い改めではありません。

第四、偽りの悔い改めとは、部分的に改革する悔い改めです。過去の罪からは離れたけど、新しい罪に耽溺<sup>たんでき</sup>して罪を犯すことです。これは、真の悔い改めではありません。罪を換えただけに過ぎない偽りの悔い改めです。真の悔い改めは、实际的に罪を止め、罪から離れることです。これは、恵みの原理がその心に注入されてこそ可能です。

## 5. 真の悔い改めとは、優先されるべき要素は何ですか。

真の悔い改めには、自分の罪に対する悟りと認識がなくてはなりません。特に、律法を通して自分は、神の聖なる御心と神の正しさに対抗したことを悟ることです。それで、自分の罪がどれだけ汚れ、忌まわしいものかを認識することです。勿論、このような霊的な悟りによって、自分の一番小さな罪でも神に敵対したことなので、神が自分を審判して地獄に送っても当然で、正しい判断だと認めることです。多くの人に悔い改めができない理由は、霊的無知と自己愛によって、自分の罪を見られないからです。人々は、世的なものについては盗撮力を持っていながら、彼らの霊的な目はふさがれていて、自分たちの罪を見られないのです。従って自分の罪を悟ることが、真の悔い改めより先立つ、

優先となる要素です。

## **6. 真の悔い改めには、罪を悟る事、同時に伴われるべきは何ですか。**

真の悔い改めには、罪に対する告白がなければなりません。罪に対する告白は、自分を自ら告訴することです（Ⅱサムエル 24:17）。これによって、サタンの告訴を止めることができます。勿論、イスカリオテ・ユダとサウル王も罪を告白したけれど、その告白は、真のものではありませんでした。真の罪の告白となるためには、特定の罪などを告白すべきです。一般的な告白は、真の罪に対する告白ではありません。真の告白は、自分の腐敗性を認めて、腐敗性から出て来た、あらゆる罪を認めることです（詩 51:5）。一方で、真の罪の告白には、その罪を反復しませんという告白も含まれるべきです。

## **7. 真の悔い改めには、罪の告白と共に現れるのは、何ですか。**

真の悔い改めには、罪を恥しめる心があります（エゼキエル 43:10）。罪を悟りながら罪責が起こり、恥ずかしさが生まれます。アダムとエバが罪を犯した時、彼らは神の声を聞き自分たちが裸であることを恥ずかしく思いました（創 3:10）。彼らは、罪を犯す前は恥ずかしくなかったのです。しかし罪を犯した後は、神の目前に自分たちの曲げられた姿を恥ずかしがるようになったのです。

サタンは、私たちに罪を犯すように誘惑します。また、罪を犯しても、それについて恥ずかしがらないように心を頑なにさせます。罪を恥ずかしく思わないように情欲と傲慢の中に閉じ込めます。従って、真の悔い改めには、罪に対して恥じる心が必ずあるべきで、これは良心が霊的に目覚める証しです。勿論、罪に対する恥じは、罪に対する悲しみも起こさせます（ゼカリヤ 12:10）。罪に対する表面的な悲しみは、悔い改めに至らしめません。真の悔い改めには、聖なる

苦しみがついて来ます。聖書ではこのことを、砕かれた、悔いた心と表現します（詩 51:17）。罪に対する悲しみは、罪を追い出し、罪と戦い、その心は抵抗するのです。

## 8. 真の悔い改めにおいて、頂点に該当する、要素は何ですか。

真の悔い改めは、罪から絶つ行動があるべきです。真の悔い改めは、罪に対して死ぬことです。これは、他の人が見られるように現れます。真の悔い改めは、心の中の罪から立ち返るだけではなく、見えるすべての罪から立ち返り神に行くのです。また罪から立ち返った以上、二度と罪に戻って行かないです。

しかし偽りの悔い改めは、完全に立ち返らないで半分だけ返る場合があります。それを半分だけの悔いと言います。罪から半分だけ立ち返った者たちは、一般的な罪は悔い改めたように見えますが、特別な罪からは絶っていないで、相変わらず罪の中にいる者たちです。現れている罪では立ち去ったけど、密かな罪は犯している状態です。このような種類の、偽りの悔い改めをする者たちのことを「類似キリスト者」(almost Christian) と呼びます（使徒 26:28、ホセア 7:8）。

## 9. 真の悔い改めの効果と、実は、何ですか。

使徒パウロは、第二コリント 7 章 11 節「見よ、神のみこころに添ったその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起させたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである。」という御言葉から、真の悔い改めの効果について述べています。

真の悔い改めとは、第一に「熱情を起したのか」です。熱情とは、罪に対す

るすべての誘惑から一生懸命に、そして、注意しながら調べることです。

第二、「弁明すること」です。それは、罪を警戒しながら、自分の良心に恥じることや怖れがないようにさせることです。

第三、罪に対して「義憤に奮い立つ」ことです。ダビデは自分自身のことを愚かな者と獣と呼んでいます（詩73:22）。罪に染まっている心について自分に義憤しています。

第四に、「恐れること」です。真に悔い改める心は、柔らかい心と恐れる心を持っています。それ以上、罪を犯すまいとするため、罪に近づかないように恐れます。この時、自分の罪のゆえ神の恵みから喪失されることを恐れる心もここに含まれます。

第五は、「慕う心」です。これは、罪を克服するために、さらに求める力のことです。罪に足鎖を付けるために力を求める心です。

第六に「熱意」です。真に悔い改めた人は、自分の救いについて熱心を出すようになります。この熱心は神の栄光のためであり、義務を果たすためのものです。聖なる義務を果たすためには、罪を攻撃的に破壊させる方法です。

第七、「処罰すること」、あるいは「報復すること」です。これは、右の眼が罪を犯せば、右の目をえぐり出してしまいなさい、という御言葉と同じ意味です。

イエスさまに出て来て香油を注いだ女は、その町で罪を犯していた女でした。しかし彼女は自分の涙でイエスさまの足をぬらし、自分の髪の毛でイエスさまの足をぬぐいました。彼女の髪の毛は多くの人を誘惑しながら、罪を犯していた道具でした。しかし彼女は、悔い改めながら自分の髪の毛に報復しました（ルカ7:38）。また、エペソにいた魔術師たちは、悔い改めながら自分たちの魔術書を火で燃やしてしまいます（使徒19:19）。このような行動は、自分たちの罪を処

罰することです。

#### **10. 恵みの手段の下にしながら、悔い改めない者たちの、特徴は何ですか。**

恵みの手段の下にしながら、悔い改めない者たちは、最も恐ろしい神の審判の下にいます。その者たちは、神の御言葉による叱責を無視しながら、良心をさらに頑なにし、神の御言葉に対抗します。預言者イザヤは、このような者たちをシオンの罪人と呼びました（イザヤ 33:14）。彼らは教会で御言葉を聞いて、悔い改めを促すメッセージを聞きながらも、決して罪から立ち返ろうとしません。自分たちは靈的に何の問題もないと考えながら、ますます傲慢になる者たちです（ロマ 2:5、黙 3:17）。このような者たちは光に対抗し、罪を犯している者たちで、その罪はさらに発展し、聖霊の恵みまでも蔑視するところにまで進んで行くのです。